

郷土館発

記録の掘り起こし

前号でガラス乾板ネガについての紹介をしました。その紹介の中心は、子どもたちのスナック写真についてでした。

今回は、別の角度の写真を紹介します。



何かを掘っているということ
は分りますが、それが何かにつ
いては前号で紹介しましたよう
に、あるご家庭のアルバムにあ
ったメモが手懸りとなりました。
これは、津具鉱山(金山)の坑内
での様子です。

津具金山の歴史は古く、武田
信玄が見出し、金掘奉行を置
いて金の発掘をしたという記録
が残っています。その歴史は記
録によると、全国的に有名な佐
渡金山よりも古いようです。江
戸時代には採掘はされませんで
したが、明治になり津具の人を
はじめ各地の人が「信玄坑」を
もとに金の採掘を行いました。し
かし、技術的な問題等があり、
うまくいきませんでした。その
後、昭和になり田口鉄道の倉田
藤四郎氏、鈴木工業所の鈴木沢
太郎氏、藤城豊氏の手によって

昭和七年、本格的な試掘・開発
が始められ、昭和九年には国の
重要鉱山として指定を受けるま
でになりました。その年、津具
金山株式会社が設立されました。
津具金山の様子については、
藤城豊氏の「津具金山」という本
に詳しく書かれています。藤
城氏が現場を離れてから閉山ま
での様子や、金山で働いていた
人たちが津具の人たちの様子が
分かる十分な資料が探し出して
いません。



ガラス乾板ネガに出合ったこ
とで、そう遠い昔ではない設楽
町の人々の営みを、映像として
知ることができました。ただ、
そこで生きた人々の声や思いを
知る手立てが少ないことも分か
りました。年数で言えば、戦争
が終つてからの七十余年の間の
ことを、なかなか探し出すこと
ができないもどかしさを感じて
います。

「もの」以上に「こと」を探す
ことへの努力をしていかなけれ
ばならないと思っています。

(奥三河郷土館長

渡邊 俊也)